

UNICEF NEWS in みやぎ

Vol. 92
ユニセフ・ニュース
2019年4月

行ってみよう、ユニセフハウス！

ユニセフハウスは、世界の子どもたちの暮らしやユニセフの活動と出会える場所です。
今、世界で何が起きているのか、何が必要とされているのか、いっしょに考えてみましょう。

■ユニセフハウスは、ユニセフ支援者の皆さまや国際協力に携わる皆さまへの情報発信の場として、また、子どもたちの学習施設として、2001年7月にオープンしました。開発途上国の保健センターや小学校の教室、緊急支援の現場などを再現した常設展示のほか、ミニシアター、130人収容のホールなどを備えています。オープン以来、全国から多くの方にご来館いただき、2017年6月には、累計来館者が30万人に達しました。世界で唯一、ユニセフの『現場』を再現した『ユニセフハウス』へ、お気軽にお立ち寄りください！

ユニセフの活動と現場を再現した常設展示・・・修学旅行で訪れる人気スポット・・・

■Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

・・・『きみが舵をとって、世界の課題を見てみよう』コーナー・・・▶

この先も続く未来と「だれひとり取り残さない」公平な世界をつくるため、さまざまな人たちが話し合い国連で定められた2030年までに達成すべき17の目標。このコーナーでは、世界の課題とSDGsを達成するためにユニセフが行っている活動を、ルーレットを回しながら楽しく学ぶことができます。さあ、あなたも未来の担い手として、変化のために舵を取ってみましょう！



■常設コーナー



『ユニセフの歴史』
ユニセフってなんだろう？いつできたんだろう？ユニセフの歴史をたどることができます。



『教室』
世界の子どもたちはどんな教室で勉強しているんだろう？子どもたちが使っている教科書もあります。



『保健センター』
体重計やワクチンを運ぶボックスなどで、開発途上国の保健センターの様子を知ることができます。



『子どもの権利条約』
子どもの権利ってなんだろう？ユニセフが活動の基盤としている「子どもの権利条約」の条文を紹介しています。

他に、『地雷レプリカ』『銃のレプリカ』『緊急支援用テント』『シアタースペース』のコーナーもあります。ユニセフの写真展示も不定期で開催しています。

■長谷部選手とワクチンを運ぼう！

～ユニセフ物資供給センターからエチオピアまでの「ワクチンの旅」～
「長谷部選手と一緒にワクチンを運ぶ」写真を撮りましょう。
“#長谷部とワクチンを運んでみた”をつけてのSNS投稿を呼びかけています。

カメラ
スポット



ユニセフハウス案内

公益財団法人日本ユニセフ協会

〒108-8607東京都港区高輪4-6-12ユニセフハウス（品川駅より徒歩7分）

開館時間 平日&第2・4土曜日10時～18時

閉館日 日曜・祝祭日・上記以外の土曜日、年末年始、創立記念日（6/9）

「展示見学ガイドツアー」を事前に予約しますと、ボランティアガイドがご案内します。

電話 03-5789-2014(学校事業部)

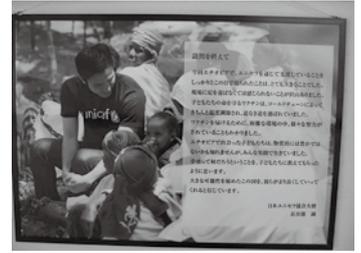


写真パネル展を開催しました

会場：みやぎ生協 文化会館ウイズ 2Fギャラリー（仙台市泉区八乙女4-2-2）

■「長谷部誠大使がたどるエチオピア “ワクチンの旅”」

アフリカ東部に位置するエチオピア。都市部では経済発展が著しい一方で、サハラ以南のアフリカで2番目に多い人口を抱え、農村部の貧しい地域を中心に今も年間20万人近い幼い命が、予防可能な原因で失われています。2017年5月、エチオピアに降り立った長谷部選手（日本ユニセフ協会大使）は、ユニセフのスタッフと共に、ユニセフが調達したワクチンが保管される首都アジスアベバの中央冷蔵貯蔵施設へ向かいました。ワクチンは熱に弱く、常に保冷した状態で保管・運搬しなければなりません。「コールドチェーン」と呼ばれる、時に電気が無い場所・状況の中でも保冷状態を維持する物流網で運ばれていくワクチンを追って、首都から町へ、町から村へ。そして、村で行われるはしか予防接種の現場に立ち会いました。長谷部選手がたどった「ワクチンの旅」を、命を守る支援に関わる人々の姿、また支援に支えられた子どもたちの笑顔とともに報告しています。（展示：11月29日～12月8日）



■「言葉より多くを語るもの～ロヒンギャ難民の子どもたちを癒す “心のケア”」

ミャンマーで暴力が激化した2017年8月以降、少数民族のロヒンギャの人たち70万6,000人以上が隣国バングラデシュに逃れ、難民になっています。家族や故郷を奪われ、心に深い傷を負った子どもたち。そんな難民の子どもたちの描く絵は、言葉より多くを物語ります。兵士に銃で撃たれる人、燃やされる家々… 小さな体で背負うには、あまりにも重い記憶の数々。ユニセフはパートナー団体と共に、子どもたちが安心して自由に遊べ、スポーツができる「子どもにやさしい空間」を、難民キャンプに約370カ所設置しました。「心のケア」を受け、笑顔が少しずつ戻り始めた様子を伝えています。（展示：12月11日～25日）



第40回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド 12月23日（日）@仙台市青葉区一番町

“手に手をとって”を意味するハンド・イン・ハンド（街頭募金）は、1979年の国際児童年に始まり、40回目を迎えました。世界の子どもたちへ笑顔を届けるため、多くの方々がボランティアに参加しました。この日は、前年同様に最高気温10度と穏やかな天候のもと、ガールスカウトの方々もいっしょに参加し、総勢80名が道行く人々に募金を呼びかけました。募金額は155,492円。近年では最も多い参加者で、募金額も最高額でした。ご協力くださいました皆さま、ありがとうございました。



年に1度の全国事務局長会議 @東京

2月14日～15日、日本ユニセフ協会全国協定地域組織事務局長会議が東京の日本ユニセフ協会で開催され、全国26の道府県協会から事務局長が集合しました。2018年度の活動報告と2019年度の活動方針など、共有化が図られました。日本ユニセフ協会と全国の道府県協会の運営を支えていただくため、「賛助会員」を増やす取り組みについても話し合う時間が設けられました。宮城県でも高齢のため退会される方もいらっしゃいますので、積極的にお声がけしてまいります。ご協力よろしくお願いたします。



©日本ユニセフ協会

お知らせ：5歳未満で亡くなる子ども、年間540万人にまで減少しました

世界の子どもたちをめぐる状況は少しずつ改善してきています。2018年9月、国連の「死亡率推計に関する機関間グループ」が発表した新たな報告書『Levels and Trends in Child Mortality 2018（子どもの死亡における地域別の傾向）』によると、5歳未満で亡くなる子どもは年間540万人（1日約15,000人）。10年前の920万人から大きく前進していますが、今も約6秒に一人の幼い命が失われています。ユニセフは地道に着実な活動を展開しています。苦しい状況に置かれている子どもたちを支援するために、多くの皆さまのご理解とご協力が必要です。

SDGs が目指す “誰も取り残さない社会” を実現するために



「日本の人間の安全保障」指標 発表記念シンポジウムが12月15日（土）にユニセフハウス（東京）で、「人間の安全保障」フォーラムと日本ユニセフ協会の共催で開催されました。2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は、“誰も取り残さない社会”の実現を掲げ、日本を含む先進国も2030年までに達成すべき、世界共通の目標です。日本において、SDGsの理念を実現していくためには、国内で取り残されがちな人々の課題や実態を認識し、それに基づいた取り組みを検討することが重要です。宮城県ユニセフ協会からもシンポジウムに参加しました。2人の感想を掲載します。

「日本の中で、取り残されている、取り残されそうな人は誰かを考え、目標を先に、そこから逆に計算する。」日本でSDGsを実現するために可視化することが大切と考え、細分化された統計やアンケートをもとに各分野（子ども、女性、若者）の専門家の話を聞きました。弱い立場の子ども、女性、若者に焦点をあて、様々な問題点を可視化した結果、日本の子どもの問題は『いじめ、暴力、自殺問題、所在不明児童、虐待、貧困』、女性の問題は『DV、ひとり親の貧困、非正規のワーキングプア、出産や育児・介護での離職』、若者の問題は『引きこもりや無業者など孤独を感じる若者が多いこと』でした。これらの問題は、世界のどこかの国の問題ではなく、日本の問題であることに改めて驚きを感じ、問題の多さを実感しました。しかも、様々な問題や課題はSDGsの一つだけではなく、いくつもの課題が複合的に絡んでいることがさらに問題を複雑にしていることだと思いました。それを紐解いていくことが大切で、『自助・共助・公助』の連携の強化を目指すべきという点と、当事者の意見を尊重し理解を深めていくことが重要という点に共感をえました。

日本の子どもたちは、「生まれてきてよかった」と自分に自信と誇りを持っているのでしょうか。身につまされる言葉でした。 高橋誠子（事務局長）

シンポジウムでは「日本の人間の安全保障指標」をもとに、誰も取り残されていない社会というSDGsの理念の実現を目指して、何をすべきかを考えることができました。

今回発表された指標は、都道府県別にデータを集計することで地域間格差を可視化し、どこで誰が取り残されそうになっているかを知ることができるようになっています。また、社会から取り残されやすい対象として、子ども、女性、若者、高齢者、障がい者、LGBT、被災者、外国人と具体的に例を挙げ、各分野の専門家から話を聞くことで、更に具体的に取り残されそうになっている人が誰なのか、考えを深めることができました。

貧困と格差、孤立、差別などの要因が複雑に絡み合い、様々な場所で取り残されそうになっている人がいます。誰しもが些細なきっかけで社会から取り残されてしまう可能性があります。私たちがすべきことは、日本にこうした問題があることを知り、関心を持つこと、そして「どこかの誰か」ではなく、身近な人で取り残されそうになっている人がいないかを真剣に考えることだと思いました。 白幡弥紀

ユニセフ募金報告 (2018年12月～2019年2月：宮城県ユニセフ協会預かり)

2018年度(1月～12月)宮城県ユニセフ協会へ寄せられた募金は **21,560,610円** でした。

- <一般募金>
 - 石巻市立飯野川小学校かしわ児童会、石巻市立前谷地小学校かさまつ
 - 計画委員会、大崎市立松山小学校羽黒児童会、加美町立中新田小学校福祉委員会、加美町立東小野田小学校PTA、色麻町立色麻小学校、仙台白
 - 百合学園中学校、大和町立小野小学校つばめ児童会、富谷市立成田小学校青空児童会、登米市立浅水小学校あけぼの児童会、登米市立東和中学
 - 校、登米市立米岡小学校若葉児童会、丸森町立丸森小学校旭ヶ岡児童
 - 会、山元町立山下小学校みやま児童会、東北大学生協同組合、
- みやぎ生協こ～ぶ委員会ハンド・イン・ハンド、
- 宮城県ユニセフ協会ハンド・イン・ハンド
- <河北新報社寄託金>
- オープンガーデンみやぎ、聖和学園高等学校薬師堂キャンパス、
- 宮城県管工業協同組合青年部連絡協議会、林香院座禅会
- <インドネシア地震緊急募金>
- 斉藤幸恵フルーツ後援会

(敬称略・順不同)

他にも、個人の皆さまからのご協力をいただいております～ご協力ありがとうございました～



▲仙台白百合学園中学校(1/18)



▲河北新報社 寄託金贈呈式(1/23)



▲登米市立東和中学校(1/24)

ユニセフのつどい2019 in みやぎ
～シンポジウム「守りたい、子どもたちの未来」～

日時●5月26日(日) 13:20～15:40 (開場13:00)

会場●仙台市シルバーセンター 交流ホール (1F)

内容●東日本大震災を通し、それぞれの立場で命の大切さを語り継いでいる4名のパネリストから
想いをお聞きし、未来を生きる子どもたちの命をどう守っていくかを考えます
パネリスト●佐藤敏郎さん(元中学校教諭)、丹野祐子さん(関上中学校遺族会代表)、
谷口光さん(日本ユニセフ協会職員)、渡邊滉大さん(元女川一中生)

コーディネーター●渡辺祥子さん(フリーアナウンサー、朗読家)

※シンポジウム終了後に関連の書籍やグッズ販売を行います

申し込み●第1次締め切り4月30日、『参加券』を5月8日までにお送りします

第2次締め切り5月15日、申し込み多数の時は抽選、当選の方に『参加券』をお送りします

電話での受付●080-5849-6006 (ユニセフ・高橋)

入場無料



▲女川いのちの石碑 ©日本ユニセフ協会/2014



▲佐藤敏郎さん



▲丹野祐子さん



▲渡辺祥子さん

写真パネル展「子どもの権利を守るパネル展」

日時●6月10日(月)～14日(金)
9:00～17:00

会場●宮城県庁1階ロビー
※ご自由にどうぞ

内容●写真パネル
「ユニセフってなあに」
「今、同じ空の下で」



©UNICEF/UN055819/Sokhin

UNICafe ～気軽なユニセフ入門講座

日時●6月15日(土)
10:30～12:30

会場●みやぎ生協文化会館ウィズ

内容●お茶を楽しみながら、ユニセフ活動について学びます
「できるときに、できることを」のユニセフ・ボランティア
活動をご紹介します

参加費●無料

募集●20名 事前にお申し込みください



夏休みユニセフ教室「親子で参加する外国コイン仕分け活動」

日時●7月27日(土) 10:00～14:00

会場●みやぎ生協文化会館ウィズ

内容●ユニセフについての学習、コイン仕分け～たくさんのコインの
中から同じコインをさがし、枚数を数え、日本円に換算します

募集●小学生親子、中学生、大学生など70名

参加費●ひとり500円(ナンとカレーの昼食代)

申し込み●7月10日締め切り、応募多数の場合抽選、

結果を7月13日までハガキでお知らせします



1日ボランティアを募集します

ご存じですか? 「褒章制度」

(公財)日本ユニセフ協会は内閣府より、公益のために私財を寄付された方に授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けております。内閣府より当協会が認定を受けた2017年6月19日以降、個人の方は500万円以上、団体・企業は1,000万円以上のご寄付をいただいた場合に紺綬褒章授与申請の対象となります。紺綬褒章に関するご質問や、分納によるご寄付のご連絡は⇒(公財)日本ユニセフ協会個人事業部

TEL: 03-5789-2013 (平日9時-17時) E-mail: donor@unicef.or.jp

宮城県ユニセフ協会

月曜～金曜日 10:00～17:00

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協A棟3F

Tel 022-218-5358 Fax 022-218-3663

E-mail: sn.municef_miyagi@todock.jp

URL https://www.unicef-miyagi.gr.jp

ユニセフニュースは年4回発行しています。(1月・4月・7月・10月)



郵便局(ゆうちょ銀行)ユニセフ募金口座のご案内

振替口座: 00190-5-31000

加入者名: 公益財団法人日本ユニセフ協会

通信欄に「K1-040 宮城県ユニセフ協会」と記入

※窓口からの送金は手数料がかかります